



助け合いながら避難行動を！

「地域で防災」を合言葉に、地域の防災力を高めよう！

自主防災組織の活動で地域防災力の向上を！

大規模災害が発生したとき、町や消防署・消防団等の防災関係機関は総力を挙げて救援活動を行います。しかし、大規模災害時には、救援要請の増加や交通事情の悪化等により、防災関係機関が現場に到着するまでにかなりの時間を要する場合があります。

阪神・淡路大震災では、お隣やご近所の方々がお互いに声をかけあい、協力し合いながら多くの人々を救出しました。

各家庭が協力して防災活動をすることで皆さんが住んでいる地域の被害を最小限にすることができます。

災害発生後、直ちに効果的な防災活動を実施するためには、平常時から地域の協力体制などについて、検討したり、定期的な訓練を実施しておく必要があります。

あなた自身とあなたの地域を守るために自主防災組織に積極的に参加して助け合う体制を築きましょう。

自主防災組織とは、「自分たちの地域は自分たちで守る」という連帯意識のもと、地域住民が自主的に防災・減災活動を行う組織です。

自主防災組織の活動に参加しましょう

自主防災組織は住民が防災活動を実施するために、自発的に結成する組織です。

地区会の代表者や役員が、自主防災組織の代表者や役員を兼ねている場合が多く、地区会の活動と一体的に防災活動を行っています。

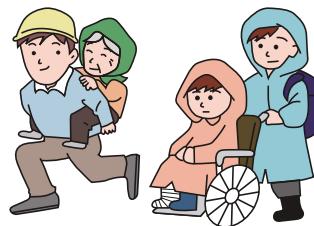


自主防災組織の取り組み

平常時	災害時
災害に備えた予防対策についての取り組みを実践します。	災害による被害を最小限に食い止める活動を行います。
●地域の危険箇所等の安全点検 ●避難路・避難場所の確認 ●地域住民に対する防災知識の普及・啓発 ●防災資器材の整備・点検 ●災害時要援護者の把握 ●防災訓練	●避難誘導 ●初期消火 ●救出・救護 ●情報の収集・伝達 ●給水・給食 ●避難所の運営 ●地域の巡回など

避難行動要支援者名簿について

高齢者、障がい者など災害時において特に配慮が必要な人（避難行動要支援者）の名簿を作成しています。この名簿を地域の支援者と共有することで、普段の見守りや災害があったときの手助けなど、地域の助け合い（共助）の力を強くする体制づくりを進めています。



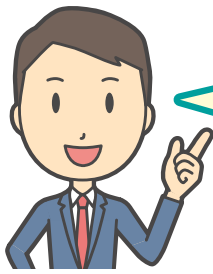
個別避難計画について

個別避難計画は、災害時に自力での避難が難しい避難行動要支援者が「だれ」と「どこ」に避難し、「避難時や避難先で配慮が必要なことは何か」をあらかじめ定めておく避難支援のための計画です。

支援してほしい側と支援する側が情報を共有することで災害時だけではなく、日頃の見守りの体制づくりを進めています。



警戒レベルを確認して逃げ遅れゼロへ！



それぞれの警戒レベルに相当する情報を、**早めの避難行動の判断**に役立ててください。
町からの避難指示等の発令に留意するとともに、避難指示等が発令されていなくとも**自ら避難の判断**をしてください。
警戒レベル5の状況では災害が発生して避難できなくなることから、**警戒レベル3や4の段階で避難することが重要です。**

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保※ ¹
~~~~~ 〈警戒レベル4までに必ず避難！〉 ~~~~~			
4	災害の おそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示
3	災害の おそれあり	危険な場所から高齢者等は避難※ ²	高齢者等避難
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	今後気象状況悪化 のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報 (気象庁)

※¹ 市町村が災害の状況を確認に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではありません

※² 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングです

## 風水害から身を守るための避難行動

大雨や台風は、震災と異なり、接近時期や規模を事前にある程度予測することができます。日頃から自宅や学校・職場などの生活環境にどのような災害リスクがあるか、防災マップなどで確認し、いざ大雨や台風が迫ってきた場合は、早めに避難行動をとれるようにしましょう。

### 避難行動判定フロー(あなたがとるべき避難行動は?)

